

は〜もにい

Harmony

南相馬市



「は〜もにい」には、「調和」や「和音」という意味があります。男女がお互いに尊重し、支え合い、仕事と家庭のよりよいバランスを考えていくことによって、より心地よくもっと心に響くハーモニーを奏でられたら……そんな願いをこめて本紙に名付けました。

主な内容

CONTENTS

■ 地域で輝く人たち

- 民俗芸能指導で地域に貢献
- 女性PTA会長座談会
- 震災を乗り越えて

第8号

2017年春号

民俗芸能指導で地域に貢献している濱名さんご夫妻



鹿島区で「下町子供手踊り保存会」の手踊り指導にあたっての濱名さんご夫妻を紹介します。保存会は、鹿島区のお祭りや神社での奉納以外にも民俗芸能発表会などの多数の公演依頼があり、様々な大会にも出場しています。

はまな
濱名 さん (58歳)
さとし
智 さん (59歳)
じゅんこ
潤子 さん (59歳)

鹿島区北千倉在住

- ・智さんは保存会長を務め唄を担当、趣味は民謡、家庭菜園
- ・潤子さんは踊りを指導、趣味は剣道、料理
- ・家族は両親、娘2人の6人家族

Q：指導を始めたきっかけをお聞かせください。

子どもたちが4人とも手踊りを習っていました。自宅でもよく練習をしていたので、私たちも自然に踊りを覚え、「民俗芸能を継承してほしい」という師匠の遺志をついで、平成18年から2人で指導に携わっています。

Q：子供手踊り保存会の現状はどうか。

少子化による影響で子どもたちを集めるのが大変です。震災前は鹿島区の子どもたちだけでやっていたのですが、現在は小高区や原町区の子どもたちも練習に参加しています。幼稚園から小学6年生までの女兒16人のメンバーで、大会に合わせてかしま交流センターで練習をしています。着物や道具が古くなってきているので、新しくしたいと思っていますが、着物の生地（反物）がなく、特殊な着物なので仕立てる人がいないので苦労しています。



一生懸命練習している子どもたち

Q：指導していてどんな時に喜びを感じますか。

昨年の10月に盛岡市で開催された「第58回北海道・東北ブロック民俗芸能発表大会」に県代表で出場し、今年は2月に郡山市で開催された「福島県民俗芸能サポート事業公演会」に出場しました。会場の皆さんからは、『子どもたちが元気で一生懸命踊っている姿が可愛らしく、すごく良かった』と、お褒めの言葉をいただき、とてもうれしかったです。日頃から一生懸命練習に取り組む子どもたちから力をもらっています。

Q：ご夫婦で、仕事以外にも民俗芸能の指導にあたって大変忙しいと思いますが、家庭で心がけていることは何ですか。

- 「自分でできることは自分で」をモットーに、家事を手伝うように心がけています。また、家庭で食べる野菜は自分で作り、新鮮な野菜を安心して食べてもらっています。(智さん)
- 家事が一番おそろかにしてはならないと思っています。私は炊事担当で、夕飯は朝のうちに準備、夫は洗濯係長、娘2人は茶わん洗いと片付け担当、両親は炊事補佐、と家族みんなで家事を分担しながら助け合っています。家族の協力があるからこそなおさら頑張れます。何事も前向きに家族みんなで相談しながらやっています。(潤子さん)

Q：これからの目標をお聞かせください。

4月には、「鹿島御子神社例大祭奉納」、5月には「鹿島秋葉神社お浜下り」がありますのでそれに向けて練習をしています。夫婦で助け合い、家族の協力を得ながら力の続く限り民俗芸能を継承するために指導していきたいです。

取材を終えての感想

「民俗芸能を守ることは日本文化を守ること」そんなご夫婦の強い意志が活動の原動力にもなっているのではないのでしょうか。「どんなに忙しくても、家事はおそろかにしてはならない」という一言がとても印象的でした。(情報誌部会委員 今野)



下町子供手踊り保存会のみなさん

女性PTA会長座談会

“学校や子どもたちのために役立ちたい”という気持ちから、小・中・高のPTA会長職を務めている女性4名にお集まりいただきました。挨拶を始めとする会長ならではの悩みや、活動に関するパワフルな意見や秘めた思いをお聞きしました。

Q：PTA会長を引き受けたきっかけやその時のお気持ちをお聞かせください。

大迫：ずっと専業主婦をしてきた私が、何かにチャレンジする姿勢や頑張っている姿を子どもたちに見せたかったことが理由のひとつです。「お母さんの頑張っている姿を見せて」と子どもたちから言われたことが一番の後押しとなりました。

湊：私の出身校でもあり、子どもが卒業する年でしたので、お世話になった学校に何か恩返しをしたいという思いで決断しました。



湊 陽子さん (子ども2人・小学校PTA会長)

鹿山：これまで副会長までは務めたことがあったのですが、会長職を務めるのは初めてでした。引き受けた後も、自分ができるかどうか不安でしたが、やるからには精一杯やってみようと思いました。家族にはすぐに話せなく、しばらくしてから報告しました。「誰も引き受けてくれる人がいなかった」ことを話したら納得してもらえました。

青田：子どもたちが幼稚園の時からずっと役員をやってきましたが、仕事をしながら家庭のことも…と考えると会長だけはお断りしてきました。高校で初めて会長職を務めることに心配や不安が多々ありましたが、主人が理解してくれており会長を引き受けることにしました。

Q：女性であるがゆえに苦労したことはありますか。



鹿山奈美さん (子ども2人・中学校PTA会長)

鹿山：役員の方々がとても協力的で、「できないところは私たちが支えるから大丈夫」と言われ安心して会長職を務めさせていただいています。役員会などは、活発に意見を出し合い発展性のある会になっており、とても良い雰囲気です。ただ、子どもたちが多感な時期なので、私が会長になったことで、『子どもたちが嫌な思いをするのではないかと、迷惑をかけるのではないかと』心配したのですが、それほどではありませんでした。

湊：特に、苦労と感じたことはありません。私が不慣れなのがわかるのか、周りの皆さんがいつも助けてくれます。以前は先生や学校が遠かった感じがありましたが、今では身近に感じられるようになりました。役員をやっていると学校や先生方、他の保護者の方々との関わりが増え、学校での子ども様子もわかるようになりました。これは、役員の特権です。(笑)

青田：一人でやるのは大変ですが、みんなで協力すればそんなに難しいことではなく、苦労を感じたことはありません。先生も保護者も身近に感じられます。私も皆さんに助けられながら、私自身も成長させていただいていると日々感じています。

大迫：私は、皆さんを引っ張っていくなんでできないので、「みんなと一緒にやっとう」というスタンスでやっています。だから、会長という気負いもなく苦労も感じたことはありませんが、活動を通して、社会や地域との繋がりはとても大事だと感じています。



大迫明美さん (子ども3人・中学校PTA会長)

Q：PTA会長として何が一番大変ですか。

一同：挨拶です。(笑)



青田直子さん(子ども3人・高校PTA会長)

青田：日々、挨拶のネタを探しながら生活している感じです。挨拶は「お母さんの目線で話せばいい」とアドバイスを受けましたので、その視点で、女性ならではの柔らかい雰囲気ですよう心がけています。

鹿山：長い話は、聞き手の子どもたちにとって苦痛です。「挨拶は短く、言いたいことは簡潔に」を心がけています。でも、挨拶が終わった後はいつも手が震えています。(笑)

Q：仕事や家庭との両立についてはどうですか。

鹿山：何より家族の協力があって仕事と家庭を両立し、そしてPTA活動もできています。また、職場の理解もあってPTA活動に積極的に参加できており、皆さんに感謝しています。

湊：仕事は、比較的時間の自由がきくため、PTAの集まりがある時などは食事の支度をしてから出向くようにしています。やることをやっていけば家族の理解も得られます。

大迫：会長を引き受けることを子どもたちが後押ししてくれたので、PTAの集まりがある時は主人や子どもたちが家事などを協力してやってくれています。

青田：仕事と家事で忙しい毎日ですが、私がいろいろなことに関わることについて、主人が理解してくれるので頑張れます。子どもたちがやりたいことに自分も関わっていることが、何より幸せだと感じています。

Q：これからの目標をお聞かせください。

一同：多くの保護者の皆さんにPTA活動に積極的に参加してもらい、楽しく、活気ある活動ができたらいなと思っています。

学校のことを先生や子どもたちだけに任せるのではなく、保護者が進んで行事等に参加し、学校に足を運んでもらい、子どもたちの姿をぜひ見てほしいです。家庭では見ることのできない、我が子の意外な面が見えるかもしれませんね。

座長：同じ立場の方々にお話をいただき、思いがひとつになり、意義があったのではないかと思います。ありがとうございました。



座長 梶田千賀子(情報誌部会委員長)

取材を終えての感想

女性ならではの意見、新しい目線、違った角度で見て、子どもたちと一緒に楽しみながら進めていくPTA活動。親は子どもたちの様子を常に見ていますが、子どもたちも親の一生懸命な姿をしっかりと見ているのではないのでしょうか。子どもと寄り添える時間は限られています。子ども、学校、家庭、そして社会へと今を大切に輝いていきたいものです。
(情報誌部会委員長 梶田)

震災を乗り越え、さらなる上へ!!

農作物の風評被害にも負けず、しいたけ栽培を再開させ、栽培による受賞を励みに目標に向かって頑張っている女性を紹介します。



いずみ けいこ 泉 景子 さん (36 歳)

小高区蛸沢出身

- ・趣味は猫や犬と遊ぶこと、音楽鑑賞〈しいたけ栽培による受賞歴〉
- ・JA まつり農産物共進会特別賞受賞
- ・福島県きのご振興協議会長賞受賞

Q：しいたけ栽培を始めたきっかけは何ですか。

この地域（小高区蛸沢）では、しいたけ栽培が盛んでした。私はもともと農業が好きだったので、平成19年に地域のしいたけ栽培農家2軒のお宅に師事し、栽培方法等を教えていただきました。そして平成22年からしいたけ栽培を始めました。

Q：しいたけ栽培をする前は、どんな仕事をしていましたか。

父の仕事を手伝っていました。父の仕事は重機関係で力も必要な仕事のため、後継者にはなれないと思い、自分の好きな農業をやってみようと思いました。

Q：家族からの反対はありませんでしたか。

我が家は兼業農家で、農作業はよく手伝っていたので、反対はありませんでした。

Q：震災後は、どのような思いでしたか。

しいたけ栽培が軌道に乗り始め、平成22年には「就農計画認定書」を県からいただきました。その翌年、震災にあいました。その時は、地元を離れようとか、栽培をやめようとは、全く考えてなく、何とか再開したいという思いでいっぱいでした。

Q：再開するにあたり行動したこと、また現状をお聞かせください。

再開するため、地元の建設会社の協力も得ながら土を剥ぎ取り除染をし、ハウスを2棟（自然栽培と空調栽培）つくりました。施設を整備するために多くの費用がかかりましたが、自分の力でやってみたいと思い補助金等の制度はほとんど利用しませんでした。震災前には、地域の方から、栽培に必要な作業台やパッカー（しいたけをラッピングする機械）を譲っていただくなど、様々な面から応援していただきました。ようやく再開できたのが平成28年6月です。5年3ヶ月かかりましたが、再開できてとてもうれしいです。再開時の栽培量は菌床2,500玉でしたが、現在は10,500玉栽培し、JA全農福島を通して全国に出荷しています。売り上げも少しずつ伸びているので働きがいがあります。

Q：これからの目標をお聞かせください。

農林水産大臣賞を受賞するのが目標です。しいたけは、かさの大きさ、肉の厚さが大切です。なかなか難しいと思いますが、より質の高いしいたけを栽培するよう頑張っています。

取材を終えての感想

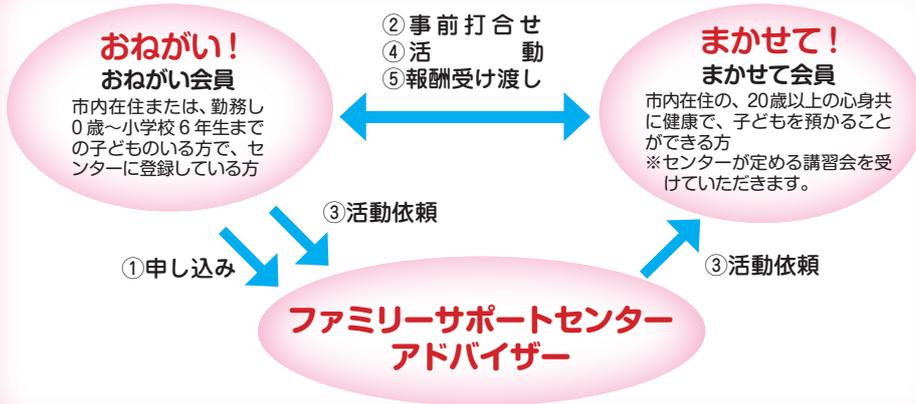
しいたけの成長に合わせて早朝から働く事もあり、再開してから1日も休むことなく働いている泉さん。自由な時間はあまりありませんが、彼女は非常に活動的で青年会議所でも大変活躍されています。地域の皆さんに支えていただきながら再開できたことは、地域にとっても大きな喜びだったと思います。（情報誌部会委員 長岡）



地域の子育てを応援します ファミリーサポート事業



子育ての手助けをしてほしい方（おねがい会員）に、子育ての手助けをしたい方（まかせて会員）を紹介し、相互の信頼と合意のうえで、一時的に子どもを預かり育児の援助を行います。子育て中に助けてもらったので、今度は自分が助けたい。そんな気持ちが地域の子育てを応援します。ファミリーサポートセンターは、両方の橋渡しをします。



こんな時応援します



仕事などで育児ができないとき



冠婚葬祭等で育児ができないとき



保育園・幼稚園等の送迎ができないとき
また、その前後の育児ができないとき



就職活動やリフレッシュをしたいときなど

報酬額

活動日	報酬額(30分)
月曜日から金曜日の午前7時から午後7時まで	300円
上記時間帯以外および土日祝日・年末年始	350円

※交通費（ガソリン代）、食事代、ミルク代等は実費で別途支払になります。

※年末年始とは12月29日から1月3日までになります。

※2人以上の児童を預け、援助活動時間が重複する時間帯は、2人目以降の報酬額が半額となります。

ひとり親家庭の方などは、ファミリーサポートセンター利用料の一部助成が受けられます。

助成額 ひと月の利用額の2分の1の額

対象者 南相馬市に住所のある「おねがい会員」で児童扶養手当を受けている方
または、上記手当の受給資格に該当する方

サポートセンターでは、おねがい会員・まかせて会員を募集しています。

南相馬市ファミリーサポートセンター

問合せ先：南相馬市社会福祉協議会

〒975-0011 南相馬市原町区小川町322-1(原町区福祉会館内)

電話：26-5669 受付時間：月～金曜日 午前9時～午後6時

(土日祝日・年末年始を除く)

表紙イラスト：小原 風子さん

1971年福島市生まれ。子どもたちとかかわる仕事を続けながら海のそばにて絵や絵本の制作を続けています。現在、南相馬市在住。

編集後記 家族一人ひとりがそれぞれの分野で個性や能力を発揮するには、「男性は仕事、女性は家事」といった性別による固定的な役割分担にとらわれず、家族が一丸となって、何事にも前向きに相談、協力し合い、お互いをフォローし合う事により実現できるものだと、あらためて認識させられた取材でした。お忙しい中、取材にご協力いただいた皆様ありがとうございました。(情報誌部会委員一同)

子育て応援Webサイト「げんきッズ!! ネット」は3分で簡単チェック!

「相談したい・届出」などの窓口がよくわかる!
「イベント・お知らせ・募集・遊び場・遊び」もこれを見れば大丈夫。
メールマガジン会員登録で毎週新着情報が配信されます。 <http://minamisoma.ikuji365.net>



この情報紙は、南相馬市男女共同参画計画推進委員会広報・情報誌部会の委員が企画・編集しました。

「は～もにい」へのご意見・感想などをお寄せください。また、地域で頑張っている方、男女共同参画を推進している職場の情報などをお寄せください。

発行：南相馬市健康福祉部男女共同子ども課

〒975-8686 南相馬市原町区本町2-27

TEL / 0244-24-5215

FAX / 0244-24-5740

E-mail : danjokodomo@city.minamisoma.lg.jp